

授業科目名	【G】 自然地理学 I 【EF】 教養講義(自然地理学 I)	区分 その他参照	開講年次	【G】1 【EF】1	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	基本科目:【G】教科及び教科の指導法に関する科目(中社・地歴……)／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目(中社・地歴……)					
授業形態	オンライン授業(複合型A)					
担当形態	単 独	【G】 教員の免許状取得のための(中社選択・地歴必修……)科目 【EF】 教員の免許状取得のための(中社必修・地歴必修……)科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項:「地理学(地誌を含む)」「(中一種社会)」「人文地理学・自然地理学」(高一種免地歴)					
サブタイトル	自然地理学 基礎			担当者	小関 勇次	
授業概要	【概要】	【実務経験を活かした授業】 高校地理歴史科教諭の経験を活かし、地理的領域における指導内容及び地理的技能を習得させ、教壇に立てるだけの力量を身につけさせる。 【概要】 自然地理学 I では、地形環境と気候環境を重点的に学習し自然地理学の基礎をつくる。 教職を目指す学生には地理的領域に対応できる知識と技能を習得する。				
	【到達目標】	1 世界及び日本の地形環境の特色を説明できる。 2 世界及び日本の気候環境の特色を説明できる。 3 地形学と気象気候学の基礎的内容が理解できる。				
履修条件	オンデマンド配信型授業のためにPCなど通信教育機器を準備する。					
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	—	(当てはまらない)			
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	○	(やや当てはまる)			
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎	(よく当てはまる)			
他科目との関連性	自然地理学 II を履修すること。また、教職課程履修者は地理歴史科指導法 I ・地理歴史科指導法 II も履修することが望ましい。					
教科書	使用しない					
参考書	「新詳高等地図」古今書院 高等学校で使用した地図帳の代用可					
評価方法	オンデマンド配信授業で毎回の課題提出を以て評価・出席とする。毎回の課題提出をもって出席・評価とする。従って、課題の評価は100%、10回以上の提出が単位取得の条件となる。					
フィードバック方法	Classroom及びメールを通じて対応する。					
評価基準	課題と授業への参加・関心・意欲・態度の加点法で算出する。上記内容について理解度と課題レポートの内容の合計が優れている者には、その程度に応じて「S」または「A」を与える。一定の水準を満たした者には、その程度に応じて「B」または「C」を与える。理解が不十分、課題レポートの未提出や不備があった者には、その程度に応じて「D」または「E」とする。なお、試験欠席など、評価不能 の場合には「F」とする。					
その他	授業ごとの予習・復習時間は、120分程度を目安としてください。 ※G加:【選択必修(イ)】 / EF加:選択					

授業 科目名	【G】	自然地理学 I	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
	【EF】	教養講義（自然地理学 I）	その他参照		【EF】1		【EF】2
授業回数	授業内容						
1	ガイダンス 自然地理学とは 予習： 高校時代の地理教科書と地図帳を準備して目を通しておく。 復習： 日本の自然環境について整理する。						
2	地形図から地形をよむ 予習： 地形図記号を覚えてくる。 復習： ワークシートと清和大学周辺の地形図作業。						
3	世界の大地形とプレートテクトニクス 予習： 地図帳を参考に世界の大地形を白地図に区分しておく。 復習： プレートテクトニクス・営力・侵食輪廻について整理する。						
4	日本の地形環境 予習： 日本の地形環境について調べておく。 復習： 日本の地形環境を整理する。						
5	火山地形 予習： 配布されている地形図の事前作業をしておく。 復習： 火山地形の類型整理 地形図ワークシートの作業を完成させる。						
6	丘陵・台地の地形 予習： 配布されている地形図の事前作業をしておく。 復習： 洪積台地・谷津田の地形分類図を完成させる。						
7	平野の地形 扇状地と三角州 予習： 配布されている地形図の事前作業をしておく。 復習： 扇状地と三角州の成因・形状・土地利用などの違いを整理する。						
8	平野の地形 氾濫原と河岸段丘 予習： 配布されている地形図の事前作業をしておく。 復習： 氾濫原の微地形分類 河岸段丘の成因など整理する。						
9	海岸の地形 離水海岸（砂浜）と沈水海岸（磯浜） 予習： 配布されている地形図の事前作業をしておく。 復習： 離水海岸と沈水海岸の成因をまとめる。						
10	サンゴ地形とカルスト地形 予習： 配布されている地形図の事前作業をしておく。 復習： サンゴ地形とカルスト地形磯浜の違いについて整理する。						
11	気候環境 気候要素と気候因子 予習： 地図帳の気候区分の項について目を通しておく 復習： 気候要素・気候因子について整理する。						
12	ケッペンの気候区分 予習： 事前配布されたワークシートで気候判別の練習をする。 復習： ケッペンの気候判別について整理する。						
13	世界の気候環境 予習： 熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、冷帯の特色をまとめておく。 復習： 熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、冷帯の特色を整理する。						
14	日本の気候環境 予習： 日本周辺の気圧配置とモンスーンについてまとめておく。 復習： 日本周辺の気圧配置とモンスーンについて図解する。						
15	自然の改変（人工改変） 予習： 東京湾の変容（埋め立てと臨海コンビナートの造成）について調べる。 復習： 身近な地域の人工改変について整理する。						

科目コード A203-1-X